



2017 年 1 月 4 日

2017 年 新年あいさつ 飛躍の年に

NS ユナイテッド海運株式会社
代表取締役社長 小畠 徹

皆さん、明けましておめでとうございます。

今日は 1 月 4 日、年末年始の休暇も終わり、新たな気持ちで仕事を始める日であります。年始にあたり私から皆さんにごあいさつさせていただきます。

厳しかった 2016 年

毎年毎年いろいろなことが起きておりますが、昨年も英国の EU 離脱、米国の大統領選挙など予測を大きく外れたことが起こりました。それぞれの意味するところや影響につきましては新聞・雑誌の解説記事やテレビ報道などで多く言及されていますので、この場で触れませんが、予想外の結果に「驚いた」というのが私の正直な感想です。

私どもが生業としている海運業界については、ある意味、予想の範囲内であったかもしれないかもしれませんがマーケットの低迷が続いた年であったと言えます。年間を通じて見ますと、あらゆる船種が供給過剰状態にあったのではないのでしょうか。私どもの事業スコープにはありませんが、コンテナビジネスを主として行っていた韓国の韓進海運^{ヘンジン}が更生法を申請しました。日本においては、定航 3 社が、今後の船舶の大型化、競争のさらなる激化に備えて外航関連事業の切り出し・統合を発表したのもつい最近のことです。ドライバルクのマーケットにつきましては、昨年の 2 月から 3 月にかけて、近海船を除くほとんどの船型が 2,000 ドル/日程度というレベルにまで落ちました。その後、秋口から足もとにかけてマーケットは回復過程にはあると見られますが、極めて厳しい 1 年であったと言えると思います。

また為替につきましても年初から円高に動き、9 月末には 101 円/ドルレベルになりました。このため、当社の上半期決算は営業利益では 23 億円強を計上できたものの円高による為替差損が膨らみ、結果として 1 億円弱の経常損失になったことは皆さんよく

ご存知のとおりです。幸いにして足もとはマーケットが少し良くなったことに加え為替が円安に進行したため予算を上回る収益をあげており、年度を通じては黒字に戻れると期待しています。第4四半期は例年厳しいのですが、皆さんにおかれましては気を緩めることなく日常の業務を遂行していただくようお願いいたします。昨年2016年の年頭のごあいさつで、私は「厳しい外部環境にも負けず継続的な利益計上できる会社であることをマーケットに示したい」と申し上げましたが、是非、年度を通しての利益計上によってそのことを実証したいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

新しい中期計画に向けて

さて、今年2017年はどういう年になるでしょうか？

先ほども触れましたが予測というのは外れるもの、時によっては大きく外れるものがあります。そういう意味では「どういう年になるか？」ではなくて「どういう年にしたいか」ということを皆さんで考え実行していただきたいと思っています。

現在の中期計画「Unite & Full Ahead II!」は3月末で終了いたします。当初目標としていた数値目標や船隊整備計画は外部環境あるいは前提が大きく変わったために未達になると思われませんが、計画作成にあたって考えた「会社として進むべき方向性および方法」については正しいものであったし、着実に成果も出ていると評価しています。最大顧客である新日鐵住金(株)殿におけるわれわれのシェアは確実に増えておりますし、専用船も予定通り増えております。対資源会社という面では40万重量トン型鉾石船の建造も決めることができ、ケーブサイズ50隻体制に向かって着実に進んでいます。VLGCも3隻体制にするめども立ちました。また、内航2社との連携も想定以上にスムーズに行えていると評価しています。

現在、2017年度から始まる次の中期計画を策定中ですが、グループ全体が成長できるように力強い計画にしたいと考えています。いままで培った「安定性」に加え、次なる飛躍に向けて前向きに取り組んでいきたいというのが私の思いです。世界の新造船計画などを見ている限り、ドライの船腹需給は緩やかながら改善していくと思われれます。バラスト水処理、SO_x規制、NO_x規制など船舶への環境規制はこれからますます厳しくなるものと思われ、原油価格も緩やかな上昇が想定されています。燃費の悪い、老朽船のスクラップ化は進むものと予想されています。

需要面では日本における石炭火力増、インドをはじめとする新興国のエネルギー需要増あるいは鋼材需要増も期待されます。新しいビジネスチャンスは多く出てくるものと期待されます。当社の強みの一つは内外航含め大型船から小型船まで同じ会社で、または事務所を共同使用するグループ会社で対応できることです。是非、各部門間での情報

共有・連携をより密にして、既存ビジネスの拡大、新規ビジネスの取得につなげていただきたいと期待しています。以前にも申し上げましたが、皆がアンテナを高くして情報を入手し、それを蓄え、さらには職場の中であるいは他部門と共有することによってビジネスに結びつけていただきたいと考えています。目標に向かって同じベクトルを持つことが肝要です。また、情報は必ずしも良い情報だけではありません。悪い情報、例えば当社に対する不満や批判なども含みます。すべてオープンにかつ前向きにとらえ、次なるステップにつないでいくことが大事だと考えています。

安全・安定運航を

船舶の運航に関しては昨年4月に発電機が損傷し7日程度停船したという事故がありました。それ以降は大きなトラブルもなく、怪我・疾病についても割と落ち着いていた1年であったと思います。もちろんわれわれのターゲットは「無事故・無災害」です。今年も従来にも増してマンニング会社・船舶管理会社と連携を密にして、安全・安定運航に努めていただくようお願いします。事故・トラブルを事前に防ぐことが大事であり、ヒヤリ・ハット事例やメンテナンス上の知見を社内で共有していただくようお願いします。チームワークの中で仕事の質を高め、技能や知見をトランスファーしていく、そういうことが会社全体で、どの職場でも自然にできるようになることを強く期待しています。明るく自由闊達な職場づくりに皆で努力してください。

より良い年に

先ほども述べましたように、われわれは昨年それなりの力を示すことができました。今年、この基礎の上により高く伸ばしていく、業績も安全成績もすべてにわたって高いレベルに向かってチャレンジし達成する、そういった年にしたいと考えています。年度としては新しい中期計画が4月から始まります。明るく良い年に、あるいは年度となるように頑張りたいと思います。みなさんよろしくお願いします。

以上が私からのごあいさつです。最後になりますが、航海の安全と皆さんならびにご家族にとりまして今年がより良い年になりますことを祈念いたします。

ご清聴ありがとうございました。